

東京総合美容専門学校
2021年度 自己評価報告書

学校法人佐々木学園
東京総合美容専門学校

評価項目の達成度及び取組状況

1. 教育理念・目標

評価項目	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1	評価
学校が教育を行う理念・目的・育成人材像などが定められているか		4
理念・目的・育成人材像を実現するための計画・方法を持っているか		4
理念・目的は、社会のニーズなどに対応し適宜見直されているか		3
理念・目的・育成人材像等が教職員に周知され、学外にも公表されているか		4

①課題

社会のニーズが多様化しているうえに、変化のスピードも速まっている中で、適宜の見直しができかねている可能性がある。

②改善方法

就職実績のある企業の経営者や人事担当者に対し、卒業生に対する評価や期待値について定期的にヒアリングを行う。

③特記事項

公式のHPや学生生活のガイドブックには、理念・目的・人材像を記載し周知している。また、入学式後の保護者会、1年生の保護者向けの授業見学会においても周知している。

2. 学校運営

評価項目	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1	評価
目的・目標に基づき、運営方針は明確に定められているか		4
目的・目標を達成するための事業計画が定められているか		4
意思決定のシステムは確立されているか		4
人事処遇に関する制度は整備されているか		2
教職員の増減に関する情報を明確に把握しているか		4
業界や地域社会に対するコンプライアンス体制は整備されているか		4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか		4
業務効率化を図る情報システム化がなされているか		4

①課題

人事評価制度の整備が必要である。

②改善方法

2021年1月より人事コンサルタントの協力をいただき、評価制度構築プロジェクトが始動しており、早ければ新年度から運用がスタートする予定である。

③特記事項

年間のカリキュラム、学校行事、各種検定対策などは全て教職員が計画を立て理事会にて承認される仕組みになっている。また、毎週1回開催される運営会議が様々な意思決定の場である。入学希望者から在校生、卒業生の情報を管理している情報システムが導入されており、効率的に業務遂行できている。

3. 教育活動

評価項目	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1	評価
理念等に沿った教育課程の編成・実施方針を定めているか		4
修業年限に応じた教育達成レベルを明確にしているか		4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか		4
キャリア教育・実践的職業教育の視点に立ったカリキュラムになっているか		4
授業評価を実施しているか		4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか		4
目標とする資格・免許は、教育課程上で明確になっているか		4
資格（免許）の指導体制は整っているか		4
資格・要件を満たした教員を確保しているか		4
研修会など教員の資質向上への取り組みを行っているか		4
業界等との連携による教員の技術向上の機会を確保しているか		4
教員たちが連携を図れる組織体制を整備しているか		4

①課題

「現場で活躍する『プロ』から学び『プロ』になる」をカリキュラムポリシーに掲げ、体系的にカリキュラムを策定している。美容師免許や各種検定等の指導体制や教員の質の向上に向けた教育研修は整備されている。しかし、新規入社教員の指導力や技術力の強化は、常に課題になっている。

②改善方法

学生アンケートや外部講師との振り返りを通じて授業の満足度の把握と次年度への改善につなげるようにしている。学生に意見は、個々の学生の意識や志の高さによることをしっかり考慮して判断する必要がある。また、授業の質向上には教員一人一人のレベルアップも大切であるが、学科・学年毎の組織的な協力関係も重要である。新入社員の教育は、入社時期

の繁忙によってどうしても対応に差が出てしまうが、繁忙期には経験豊富な非常勤教員に教育を依頼することも検討していきたい。

③特記事項

各学科とも 1 年生の後期よりインターンシップや合同企業説明会等キャリア支援の授業やイベントを定期的に開催している。日々の授業での知識や技術の習得と並行して新卒としてミスマッチのない会社選びができるように指導していきたい。

4. 学習成果

評価項目	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1	評価
就職率の向上は図られているか		4
資格・免許の合格率の向上が図られているか		4
卒業生・在校生の社会的評価を把握しているか		3

①課題

美容科は、例年通りほぼ 100%就職することができているが、トータルビューティー科は、新型コロナウイルス感染症の影響により、化粧品会社の採用枠が激減しているためメイク希望の学生が苦戦している。資格や検定試験への対策は、毎年講師陣が対策授業を行うなどして万全の態勢で臨んでいる。来年度からは、AI を駆使した模擬試験を定期的にも実施することで、合格率のさらなる向上を図っていく。

②改善方法

トータルビューティー科のメイク希望者への対策としては、化粧品メーカーだけでなく、百貨店やドラッグストア等の小売業界にも広げてチャレンジさせるようにしている。また、新卒枠だけでなく中途採用枠にも応募させるようにしている。卒業生や在校生の社会的評価は、業界の人事担当者から定期的にヒアリングし、学校として職員全体で共有していきたい。

③特記事項

プロから学ぶコース別授業にお越しいただいている、青山や原宿、銀座に出店している有名店への就職を希望する学生が多い。卒業後、自分自身も母校の教壇に立ちたいと考え、有名店にチャレンジしてくれている。

5.学生支援

評価項目	適切：4 ほぼ適切・3 やや不適切：2 不適切：1	評価
就職に関する支援組織体制は整備されているか		4
退学率の低減が図られているか		2
学生相談に関する体制を整備しているか		3
学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか		4
学生の健康管理を担う組織体制は整備しているか		4
学生の生活環境への支援は行われているか		4
課外活動に対する支援体制は整備されているか		3
保護者と適切に連携しているか		4
卒業生への支援体制はあるか		4
社会人ニーズを踏まえた教育環境が整備されているか		4
産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか		—

①課題

今期は、トータルビューティー科1年生の退学率が例年以上に高まってしまった。また、新任の教師のクラスの退学率は高い傾向にある。学生相談体制は、原則担任主導で行っているが、メンタルな相談については、専門家の配置も必要となると推察される。卒業後の再教育プログラムは、美容業界としては大いにニーズはあると思われるが、具体的なアクションは起こせていない。

②改善方法

退学率の低減には、ベテラン教師の退学防止策の共有が重要である。新学期が始まる前に、そのような機会を創り実現していく。外部の専門家による相談体制は、常勤していただく程の必要はないと思われるため、必要に応じて依頼できる体制を検討する。

数年前、美容室経営者数名と卒業後の再教育プログラムについて相談したことがあり、その際に強いニーズは確認できた。この取組は、担当する組織体制を構築してから進めていく予定である。

③特記事項

学生の経済的側面への支援は、後援会や同窓会組織による金銭的な援助をいただいている。特に、後援会による緊急時の貸与型奨学金は、困っている学生の大きな支えになっている。保護者へのお知らせについては、郵便から別のツールを利用することを検討していきたい。

6. 教育環境

評価項目	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1	評価
教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具を整備しているか		4
校外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか		3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか		3

①課題

東日本大震災以降、全学生分の防災グッズの整備や施設・設備の定期点検は実施しているが、学校全体での避難訓練は行えていない。昨年度は、新型コロナウイルス感染症による非常事態宣言により校外実習やインターンシップ、海外研修が全て中止になってしまった。

②改善方法

校外実習などは、新型コロナウイルス感染症の感染収束次第になると思われる。避難訓練の実施も密になることが予想されるため全校での実施は難しい。豊島区役所や保健所、消防署等に相談しながら改善方法を検討したい。

③特記事項

施設・設備の老朽化に対応するための点検や改修工事が多くなっている。新年度より学習効率を向上させるための取組として、AI を使ったアプリによる機械学習の導入を計画している。

7. 学生募集と受入れ

評価項目	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1	評価
学生募集活動は、適切かつ効果的に行っているか		3
学生募集活動において教育成果は正確に伝えられているか		4
入学選考基準は明確になっているか		4
入学選考は、適性に行われているか		4
学納金は、妥当な金額設定になっているか		4

①課題

昨年度は、新型コロナウイルス感染症による非常事態宣言の発出などにより、対面型のオープンキャンパスへの高校生の参加が著しく減少した。WEB による説明会や面談会の実施などで対応策を講じたが例年並みの参加数まで補うことはできなかった。「就学意欲が高く、美容業界で活躍したい熱意のあるもの」をアドミッションポリシーとして選考を行っているが、入学後に熱意が低下してしまう学生が出てきてしまうことが残念である。

②改善方法

新型コロナウイルス感染症が収束すれば対面型のオープンキャンパスへの参加数は改善されると推察している。前年はほぼできなかった高校訪問を積極的に行い、進路指導の先生から本校の入試制度や特待生制度、就学支援新制度等をしっかり伝えることで募集強化を図っていく。入学後のモチベーション維持は、教員と入学担当者と情報共有しながら対応していきたい。

③特記事項

新年度は、去年は実施できなかった、プロから学ぶ授業が体験できるコース別体験を実施したい。年代も近い卒業生から美容実習を教えてもらえることは、高校生にとっては自身の将来のイメージにもつながり入学志望が高まると思われる。

8.財務

評価項目	適切：4 ほぼ適切・3 やや不適切：2 不適切：1	評価
学校及び法人の中長期的な財務基盤は安定しているか		4
予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか		4
法律や寄付行為に基づき、適切に監査を実施しているか		4
財務情報開示の体制は整備されているか		3

①課題

少子化が進む時代の中、学生募集は年々厳しさが増しているが、財務状況は概ね健全である。家庭年収がそもそも低い家庭の学生や経済的に急変してしまった家庭の学生が、授業料や教材費を支払えないケースが増えている。公的な奨学金を利用したり後援会組織に貸与をお願いしたりと救済策を講じているが、退学に至るケースも出てきている。

②改善方法

授業料収入の減少は、退学者の増加が大きく影響してくる。退学理由は様々であるが、少しでも早期に対応することで退学まで至らないようにすることが重要である。また、新年度より高等教育の修学支援新制度の対象校に認定されたので、この制度も積極的に広報することで財務基盤の安定への一助にしたい。

③特記事項

寄付行為に基づき、定期的に予算検討や決算説明の理事会を開催し監事の方々に財務状況のチェックをお願いしている。昨年度より、新しい会計事務所と契約し、より精度高く監査していただく体制を整備した。

9.法令等の遵守

評価項目	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1	評価
関係法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営がなされているか		4
個人情報保護に関する対策が取られているか		4
自己評価の実施体制を整備し評価を行っているか		4
学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか		4
学校関係者評価結果を公表しているか		4

①課題

資格を保有する職員の増員が喫緊の課題であるが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、各教科の教員資格の取得するための研修や試験を受ける機会が減少している。

②改善方法

新型コロナウイルス感染症の収束が待たれるところだが、美容学校教員資格を持った経験者の採用も並行して行う必要がある。

③特記事項

学校関係者評価委員には、就職や教材購入等でお世話になっている有名企業の役員の方々に就任いただいている。

10.社会貢献・地域貢献

評価項目	適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか		4
国際交流に取り組んでいるか		3
学生のボランティア活動を推奨し支援を行っているか		3

①課題

海外研修旅行やボランティア授業等、教育カリキュラムに制度化しているが、昨年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により実施できていない。

②改善方法

この項目も新型コロナウイルス感染症の収束が待たれる。

③特記事項

資格試験の実施団体への教室の貸出し、各種イベントへのホールの貸出しは、結果的に教育や文化活動の支援につながっている。